日本語能力試験　受験上の配慮　障害別対応リスト

　日本語能力試験の受験上の配慮における、障害別の基本的な対応は下記のとおりです。ただし、下記の内容と異なる配慮を希望があった場合は、申請者の障害の種類や程度や、過去の類似例を考慮しつつ、実施機関にとって実現可能な範囲で対応を検討しますので2025年9月12日（金）までに国際交流基金日本語試験センター（以下「TC」）にご相談ください。

１．視覚障害

|  |  |
| --- | --- |
| 障害の詳細 | 基本的な受験上の配慮内容 |
| 試験問題用紙 | 解答方法 | 試験時間延長 | 試験室 | その他 |
| (1) 重度視覚障害 (点字使用者） | 点字問題 | 点字による解答　※1 | Ｎ1・Ｎ2言語知識・読解：解答速度比2.25倍Ｎ3・Ｎ4・Ｎ5言語知識（文字・語彙）：語彙解答時間の1.8倍Ｎ3　言語知識（文法）・読解：解答速度比2.5倍Ｎ4・Ｎ5 言語知識（文法）・読解：解答速度比2．25倍 | 別室 | ・文字・語彙は、語彙部分のみを受験。 |
| (2) 弱視 | 問題用紙の拡大印刷 (基本は141％、A4→A3)　※2 | 問題用紙に直接書き込み | 全レベル　　　 聴解： 1.3倍Ｎ1・Ｎ2　　　 言語知識・読解：1.5倍Ｎ3・Ｎ4・Ｎ5 言語知識（文字・語彙）：1.3倍 　　言語知識（文法）・読解：1.5倍 | 必要に応じ別室 | 拡大鏡、拡大読書器(※3)や電気スタンド等の使用も可。 |

※1　本人が点字器等を持参する。点字解答用紙は日本で墨訳を行うので、そのままTCへ返送。

※2　拡大問題用紙を利用する場合は、広い机が必要になることに留意する。

※3　拡大読書器については、実施会場に当該設備があるかどうか、また試験当日の使用についても事前に手配が必要であることに留意する。

２．聴覚障害

|  |  |
| --- | --- |
| 障害の詳細 | 基本的な受験上の配慮内容 |
| 試験問題用紙 | 解答方法 | 試験時間延長 | 試験室 | その他 |
| (1) ろう | 聴解科目を免除（両耳の平均聴力レベル60dB以上） | － | － | 必要に応じ別室 | － |
| (2) 難聴 | 聴解試験時にヘッドフォンや補聴器/人工内耳使用 または聴解科目を免除（両耳の平均聴力レベル60dB以上） | － | － | 必要に応じ別室 | ・スピーカーの近くに座席を配置する。・ヘッドフォンや補聴器は本人持参可。 |

３．運動障害

|  |  |
| --- | --- |
| 障害の詳細 | 基本的な受験上の配慮内容 |
| 試験問題用紙 | 解答方法 | 試験時間延長 | 試験室 | その他 |
| (1) 上肢 | 要すれば介助者の配置（問題めくり）要すれば問題用紙の拡大印刷 (基本は141％、A4→A3)　※1 | 問題用紙に直接書き込み | 原則として全科目とも1.3倍 | 別室 | ・椅子、机の高さに配慮。・車椅子、特製机、椅子、クッション等の持参可。 |
| (2) 下肢 | － | － | － | 別室（１階またはエレベーター近く配置等） |
| (3) その他頚部、体幹他の受験に影響あると思われる部位 | 要すれば介助者の配置（問題めくり）要すれば問題用紙の拡大印刷 (基本は141％、A4→A3)　※1 | 問題用紙に直接書き込み | 原則として全科目とも1.3倍 | 別室 |

※1　拡大問題用紙を利用する場合は、広い机が必要になることに留意する。

４．発達障害（LD／ADHD／ASD等）

|  |  |
| --- | --- |
| 障害の詳細 | 基本的な受験上の配慮内容 |
| 試験問題用紙 | 解答方法 | 試験時間延長 | 試験室 | その他 |
| 発達障害等 | 要すれば問題用紙の拡大印刷 (基本は141％、A4→A3)　※1 | 問題用紙に直接書き込み | 障害の度合いにより、全科目とも1.3倍／1.5倍 | 別室 |  |

※1 拡大問題用紙を利用する場合は、広い机が必要になることに留意する。

５．その他の障害

9月12日（金）までにTCにご相談ください。

以上